

ラシクノ差引アレトキハ之レヲ分ツトモ千
五百フランクナルユヘ控訴セシメス

千五百フランクノ訴訟ニツキ千五百フランクヨ
リ多キ差引アレトキハ之レヲ許スナリ

此説善シ併シ此説モ法律モ區別ハナキナリ

タトヘハ千五百フランクハ千五百フランクノ差
引アレトキハ原告被告トモ求ムル高ハ同シ
故ニ終審トナス之レ法律ノ意ナリ

タトヘハ原告ニテ千五百フランクノ訴訟ヲ為ス
ニ被告人ニテ千五百フランクノ差引アリ

司法省

ト云フトキハ法律ノ意ニヨリテ千五百フラン
クノ求メトナシテ終審スルト虽モソノト
キ万一被告人ニテ我レバ借リタル覺ハナシ
ト云ヒテ故障ヲ云ヒ且ツ我レコソ千五百フ
ランクノ貸アリト云フトキ裁判ノ上被告又
ニテニツ負ケ借金ヲ拵ヒ又我カ貸シタリ
トノ説モ立タサレトキハ合セテ三千フラン
シクトナルナリ之レニ及シテ勝タルモ同シ
クニツノ勝チトナルナリ故ニ法律ニモ前
説ニモ裏面アリト我レハ云フナリ

然ルニ之レハ我レ此論ヲ設ケタルモノナリ即チ
初メノ説並ニ法律ノ意ニ基ツキテ為スヘ
キナリ

係レ此ノ如キトキハニツニ分チレハ即チ千五百
フランクツノ争ヒトナル之レハ各別ニ訴
ヘテ為スヘキモノナレトモ裁判所ニテハ既ニ
持テ出レタルモノハ之レヲ裁判スルナリ之
レハ又費ヲ省ク為メナリ

之レハ一席ニニツノ訴訟ノ起リタルト見做ス
モノナリ即チ被告ノてこニテ原告トナルナリ

司法省

タトヘハ甲一方ニテ二千フランクヲ訴ヘタルニ
乙ノ一方ニテハ千二百フランクノ差額ヲ
訴ヘタリ此時乙ハ二ツ負ケ合三千二百フ
ランクノ負ケトナリタリ此時二千フランク
ノ控訴ヲ為スヲ得テ千二百フランクノ控
訴ヲ為スヲ得サルナリ

通常ヤレハ千二百フランクノ控訴ヲ為スハ
得ヘカラサルニ千フランク次チヲ以テ千二
百フランクノ差額ヲ為スハ前ニ説ク所ノ
千五百フランクノ控訴ハ出来サルトノ

法律トハ相ヒ合セサルニアラスヤ

然ラスソノ千二百フランクハ即チ初告裁判取
ヘ出テタルト同シト見做ヤリ

此千二百フランクハ武器ト同シ控訴裁判ニ
ハ出テタルモ猶ホ此武器アリ以テ此訴訟
ヲ防クナリト云フヘシ

又タトヘハ甲ニテ二千フランク求メタリ然ル
ニ乙ニテ千二百フランクノ差引ヲ求メタリ
此時甲ニテ二千フランク勝チ千二百フランク
ヲ負ケタリ

司法省

之レニハ不服ナリ

ソノトキハ甲ニテ千二百フランクノ控訴ヲ求ム
ルコトヲ得ヘキヤ

他ノ例ヲ以テ前キノ譬諭ヲ解カントス

タトヘハ甲ニテ二千フランクヲ求メタリ然ル
ニ乙ハ差引勘定ヲ求メス千フランクハ
既ニ拂ヒタリト云ヒタリソノトキハ甲ニテ
ホク千フランクノ不足ナルヲ以テ不服ナ
リトテ控訴スルコトヲ得ヘキヤ

之レヲ控訴スルニハ合セテ二千フランクヲ控訴

セサル可カラス

前ノ例ハ合セテ三千二百フランクトケテ持テ出
スフヲ得ルナリ要之ニ先ニ云フ取ノ道理ト
同レナリ

之レヲ控訴スルトモ控訴裁判取ニテソノ二千
フランクノ勝テハ破毀ハセサルナリ初メ云
ヒタル三千二百フランクノ一ハ之レヲ分カ
テハ控訴ヲ為スフヲ得サルナリ

此三千二百フランクノ方ハ二千フランクノ勝
テモ千二百フランクノ負モ合セテ不服ナリ

司法省

ト云ヒテ三千二百フランクノ取口ニテ控訴
ヲ求ムルナリ

仍テ千五百フランクノ願ヒト利益ヲ合セテ千
六百五十フランクトナル然ルニ裁判ト
ナリタルトキ之レハ無利益ノ貸金ナリシ
ト云ハレタリトモ控訴スルフヲ得ルナリ
千五百フランクヘ利益ヲ加ヘテ惣高トナスト
キハ二千六百フランクトナルユヘ控訴ヲ
為スフヲ得ルナリ

此論ハ法律上ハ書イテナレ仍テ貴意ノ向フ如

ロトナスナリ

係レハニテ目下行フ野口ハ此ノ如シ

更ニ一例ヲ挙ケントス之レハ法律ニアリ千八

百三十八年ノ命令ナリ

原告ニアリテ訴訟ヲ為シタリ然ルニ被告人ニ

テ徳ヲ損スルカ又ハ損害ヲ生シタリ

此場合ニテ甲ヨリ訴ヘテ乙カ損ヲナストキナ

リ

甲ニテ千二百フランクノ訴ヘナリ乙ハ損害ノ償

ノ為メニ二千フランクヲ求メタリ

司法省

原告人ハ勝テ被告人ハ負ケタリ

原告人ノ負ケタルトキハ控訴スルヲ得ル

ト雖モ被告乙ノ負ケタルトキハ控訴ヲ

為スヲ得ス被告人ニテソノ訴訟ニツキ

テノ損害ノ償ヲ求ムルモノハ何程ノ額

ニ上ルトモ控訴ヲ許サミルヲト定メタリ

之レハ控訴ニ上ルヘキ金額ヲ依リテ許

フルノ際ヲ防ク為メニ立テタルモノトシ

此損害ノ償ヒハ全ク主タル訴訟ヨリ生

スル償ノ時ニ限ル可シ

訴訟法會議筆記

八年三月十日
卷三十六

司法省

訴訟法會議筆記 八年三月十日

控訴ノ手ツミキノケ條ニ涉ル前ニ控訴ノ原因タルヲ説カントス

初告裁判所ノ裁判官ノ至ツテ賢明ナル裁判ニモセヨ更ニ上等ノ裁判官ナラハ亦夕一層ノ明裁判ナラント望ムハ之レ人間ノ常態ナリ佛ノ諺ニ通常ノ裁判ニ於テ負ケタルモノハ不卒ノ色アリト云フナリソノ間ハ二十四時間ナリ之レヲ過クレハ少シリ心思静定スルノ意アリ

司法省

之レハ今日ノ諺ナリ併シ之レヲ裁判官ノ面前ニテ云フトキハ裁判官ヲ罵詈スルノ罪ニ
談ル

一ツノ控訴ヲ為スノ権アリテ上等ノ裁判所ニ訴ヘテ前裁判ノ不足ヲ補フハ善キヤ
悪シキヤ

案スルニ之レハ悪シキト思フナリ
及令ハ裁判所ナカルヘカラスト云ヒテ初告裁判所ヲ立テタリ初告裁判所ハ信用ナラスト
シテ控訴裁判所ヲ立テタリ

此初告裁判所ハ此ノ如ク信用ナラサルモノナ
ラハ信用ナルヘキ控訴裁判所ノ如キモ
ノヲ立テタラハヨロシキニアラスヤ

千四百九十九フランクニテ又千百フランクニテ控
訴ヲ為スコトヲ得ヌ千五百フランクヨリ以
上ノモノハ控訴ヲ為スコトヲ得ルトハ幸
不幸アリ且ツソノ金額ノ少ナキハ貧人
ナリ多キハ富人ナリ金額ノ少ナキ貧者
ハ不幸ニシテ多キ不者ハ幸ナリ

其貧者ノ少ナキ金額ト富者ノ多キ金額トハ
司法省

ソノ金ノ費キコトハ同シナリ

元來控訴スルコトヲ得サルトナレハ裁判官モ注
意スルナレハ控訴スルコトヲ得ルトナレハ裁
判官モ自然ニ不調ノコトアルヘシ

如レソノ初告裁判所ノ裁判ニ不服アリトモ
之レヲ控訴スルトキハ入費モ掛ルユヘ
不服ナカラシ控訴ヲ為サミルモノモアルヘシ
裁判官モ控訴ヲ為サミリレコトナラハ最一層注
意スヘカリレコト思フモノアルヘシ

人々自カラ思フニ控訴裁判所ハ裁判官七人

アリ

年長ニシテ学問マリ初告裁判取ハ三人ニシテ
且ツ年モ弱カシ学問モ浅シ

仍テ控訴裁判取ハタシカナリト云フモノマリ
真ニ此説ノ如シ係シ如シ如此キラ以テモ
ハ控訴裁判取ヨリ始メテ初告裁判取ニ
及フ方ヨロシカラス

併ニテハ一郡コトニ初告裁判取アリ二三列コト
ニ控訴裁判取アリ仍テ裁判取ヲウケナクシ
テ一取ノ裁判取ニ裁判官ヲ多クナス方ヨ

司法省

ロシト思フナリ

目下拂ニテ控訴ヲ許スノ弊ヲ言ハシ。

如シ初告裁判取ニテ裁判シタルモノ控訴ス
ルトキ双方言合セテ同シ裁判ヲ為シタ
ルトキハソノ裁判ハ違ヒハナシト思フナリ
之レニ及シテソノ裁判ノ違ヒタルトキハ更ニ上
等ノ裁判取ナカルヘカウナルナリ

伊太里亚ニテ法律家ノ集會ヲ為シタルトキノ
説ニ今云フ取口ノ控訴ノ不都合ヲ云ヒタリ
又初告ト控訴トハ同シキトキハヨロシト云ヒテ

ノ違ヒタルトキハソノ裁判ヲ調査スル更ニ
上等ノ裁判取テカクルヘカラスト云ヒタリ

又一説アリマレハヨロシト思フナリ

一ツノ初告裁判取ニテ裁判シタルモノヲ直チニ
控訴セシメス同等ノ初告裁判取ニ移シ
テ裁判ス若シソノ裁判ノ同シキトキハ控
訴セスソノ違ヒタルトキハソノ時ニ控訴
スハントノ説ナリ

ソノトキ控訴裁判取ニテ何レニカ付クヘシ初
メノ裁判力又ハ後ノ裁判力ニ付キタルキハ

司法省

控訴裁判トモニ二ツノ説トナルユハ先ツ過
チノナキモノト見ルナリ

右ノ仕方ナルトキハ初メノ裁判ニテモ同シ等
ノ取ロヘ移サレトキハ精神ヲ出シテ
之レヲ為ス後ノ裁判取ニテモ彼且ハ何レ
ノ裁判ヲ為シタリヤト競ツテ取調ルナリ
控訴裁判取ヘ直チニ出ストハ大イニソノ精神ノ
入レ方ハ違フモノモナリ

併ニテモ之レニ同シキフアリシナリ

千八百五十六年六月十三日ニテ刑事ニ付テ死罪

ント同レフアリタリ今ハ廢シタリ

初告裁判所ニテ刑事ノ裁判ヲ為シタトヘハ入牢

ヲ命シタル等ノトキ直チニ控訴ヒスレテ

ソノ近邊ノ同等ノ裁判所ヘ出シタリ

ソノトキ隣郡ノ刑事裁判所ニテ更ニ之レヲ

裁判ス

ソノ裁判ハ同シケレハヨロシ係レ違フトキハ

違ヒタルニシテ即チ確定ノ裁判トナル

トナリシ

今控訴ノフヲ説キタルトハ少シク違フナリ

司法省

伊ニテ言タルモノハ違ヒタルトキハ控訴スル

今ノ刑事ノフハ違ヒタリトモ確定トナル

ノ違ヒナリトス

前キニ云フ所ハ宛カモ監定人ヲ用ユルカ

如シ

先ツ一人ノ監定ヲ用ヒタリ之レヲ不服ナリ

カナラストレテ更ニ一人ヲ用ヒタリソノト

キ説ハカレタリ仍テ三人目ノ監定人ヲ

用ヒタリ

裁判モ之レニ同シ

以上ノ論ハアリト云ヒ歐洲一般ニテハ初告裁
判所ニテ不服ナルトキハ控訴ヒシムルヲ
通例トス

係シ道理ニ於テハヨロシカラスト思フナリ
今日ノ執行スル所ロハ控訴裁判所ニテ初告
判所ト同シキトモ違フトモ控訴裁判
所ノ裁判ヲ以テ確定ナリトス道理ニ於
テハ如何

案スルニ一列毎ニ五人ノ裁判官ヲ置キテソノ法
津ノ不申明ナルヲニ付テハ大審院ニテ之レヲ

司法省

検査スルヲト為シタラハヨロシカルヘシ

問 千五百フランク以上以下ヲ以テ推限ヲ定
メタルソノ道理ハ如何

答 項細ノコトハ許サスト為シタルハソノ繁雜
ヲイトフユヘナリソノ所要不所要ハソノ
貧富ニヨリテ立ツケトキハ弊ナキコトナルヘ
キナレト立法官ハ其邊注意ナカリシナル
ヘシ

尤モ願高ヨリハ入費ノ多クナル弊ヲ矯メタ
ルナリ

係シ之レハ我カ意ニハ反スルナリ

何トナレハ千円ノ訴訟ニ千円ノ入費ヲ掛ケタ
リトモ勝テタルトキハ入費ヲ免セテ先方
ヨリ之レヲ取ルナリ

如シ負ケタルトキハ致シ方ナシ

以下本條ニ移ル

第三卷

第四百四十三條 千八百六十二年五月三日如左
改ム控訴ヲ為ス可キ期限ハ二ヶ月内ナリ
トス但シ其期限ハ原告被告双方共ニ初告

司法省

裁判所ニ出席シテ裁判言渡ヲ受ケタル
時ハ其言渡各一方本人又ハ其任取ニ
送達シタル日ヨリ之レヲ數フ可シ

一方ノ者抗傳シテ諸告裁判所ノ裁判言
渡ヲ受ケタル時ハ其言渡ニ付キ故障ヲ
述フルヲ得サレニ至リレ日ヨリ之レヲ數フ可
シ然レモ控訴ノ被告又嘗テ初告裁判所ヨリ得
タル言渡各ヲ控訴ノ原告人ニ送達シ其被告
人後ニ控訴ヲ為ス可キ旨ヲ別段其言渡各ニ
付記セラルト雖モ二ヶ月ノ後ニ至リ其原告人ノ

主タル控訴ヲ為ス間何時ニ限ラス其被告
人附帯ノ控訴ヲ為ス可ク得可シ

第四百四十四條 前條ニ記シタルニケ月ノ期限

ヲ過クル時ハ控訴ヲ為ス可ク得ス又如何

ナル者 邑公會社幼者治産ノ禁ト云ヒ其期限

ノ後ニ至テハ控訴ヲ為スノ權ヲ失ヒ唯己レ

ノ支配人及ヒ後見人ニ對シテ償ヲ得ントス

ル訴ヲ為ス可ク得可シ但シ幼者ニ付テハ

其後見人ノ監察者初告裁判所ノ訴訟ニ

自カラ管セザリシ時ト云ヒ其裁判所ノ言渡

司法省

書ヲ監察者ト後見人トニ送達シタル日

ヨリ其期限ヲ數フ可シ

第四百四十五條 千八百六十二年五月三日如左

改ム佛蘭西ノ本國外ニ任スル者ハ控訴ヲ

為スニ付初告裁判所ノ言渡昏ノ送達ヲ得

タルヨリニケ月ノ期限ノ上更ニ第七十三條ニ

記シタル被告人呼出ノ猶豫ノ期限ヲ得可シ

第四百四十六條 千八百六十二年五月三日如左改ム

公務ノ任ヲ受タルニ因リ佛蘭西ノ本国外

又ハアルセリトシノ地外ニ在ル者ハ控訴ヲ

為スニ付キ初告裁判所ノ言渡各ノ送
達ヲ得タルヨリニケ月ノ上更ニハケ月ノ
猶豫ノ期限ヲ得可シ又航海ノ為メ外國ニ
在ル海客ニ付テモ同上猶豫ノ期限アリトス
第四百四十三条ヨリ第四百四十六ニテハ控訴
ノ期限ヲ云ヒタルモノナリ

近頃ニテハ三ケ月ナリレカキ八百六十五年
ノ月日ヨリニケ月トナシタリ
ソノ取以ハ往復ノ自由ニナリタルユヘナ
リ

司法省

手簡往復又ハ自カラ出掛ケルトモ自由
ナルユヘナリ

一郡中ヨリ控訴裁判所へ出ルニハ二ケ月
ニテ足レリ

ソノ起算ハ何時トナルニ裁判言渡ノ日ヨ
リスルニアラス

ソノ言渡各ヲ本人ノ住所ニ送達シタル
日ヨリ起算スルナリ

タトヒ出席裁判ニシテ本人ノ居ルトキテ
リトモ言渡ノトキ本人直チニ之レヲ承

知レタリレトテ起算セス必ラスツノ送
達ヲ受ケタル日ヨリスルナリ

裁判言渡各ヲ代唇師ニ渡スハ本人ヨリ先
キニ為ス此時ヨリ起算セス必ラス本人
ハ送達レタルトキヨリナリ

欠席裁判ニテ言渡サレタルモノハ故障ノ
日限ノ切レタル日ヨリ起算スルナリ

初告裁判躬裁判ニ付キ何レカ一方ノモノ
ハ不服ナルトキ一方ニテ控訴スルキハ
他ノ一方ノ者ニテ控訴ヲ為スヲ得

司法省

ルツノトキハツノ双方ノ期限ハ違フナ
リ

原告人控訴ヲ為スニハ二ヶ月間ニ之レヲ
為サシルハカラスツノ被告人ノ控訴ヲ
為スニハ原告人ノ控訴ノ未タ裁言渡ト
ナラサル間ハ何時ニテモ控訴スルヲ
ヲ得ルナリ

一方ノモノニ控訴ハ二ヶ月目ノ三十日四
時迄キニ控訴ヲ為スト去ヒ送リレトキ
被告人ニテ控訴ヲナスヲ得サレド

ニテハ憫然ナルコトナリ

何ノ為メニ被告人ニ無限ノ期ヲ與ヘタリ
ヤトナルニ原告人ニテ詭偽ヲ為ス為メ
ニ我カ控訴期限ヲ尽クルナリ仍テ之レ
ヲ防ク為メニ立テタルモノナリ
タトヘハ双方ニ付テ二千圓ノ訴訟ヲ為
スニ双方トモ千圓ニ勝テタリソノハ
原告被告トモニ不服ナリ倚レ被告人ハ
原告ニテ忍フナラハ忍フ積リナリ然ル
ニ原告人ニテ控訴ヲ為シタリ仍テ止ムコト

司法省

ヲ得ス被告人ヨリモ控訴ヲ為シタリ

然レモノ一項ハタトヘハ初告裁判ニテ甲

原告人ナリ乙ハ被告人ナリ通常ナレハ

原告人ニテ不服ナルトキハ此訴訟ハ控

訴ヲ為スヘルト言渡唇ニ附記スルナリ

然ルニ附記セスシテ送達シタリソノト

キ被告人ニテ控訴ヲ為シタリ然ルニ原

告人ニテハ我レハ元トハ控訴ヲ為サシ

ル積リナリレカ君カ訴訟ヲ為スカラハ

我レモ控訴スヘント云フトキノコトナリ

控訴スヘント思フ不服ナルトキハ原告
人ニテ言渡昏へ控訴スヘキ旨ヲ附記シ
テ被告人ニ送達スルハ通例ナリ之レ
ハ訴訟法中何レノ取ロニモ昏テハナシ
旧キ訴訟法ノ中ニアルナリ
タトヒ附記シテ送達シタリトモ必ラズ
控訴ヲ為スニモ及ハス後ニ之レヲ止
ムルモ勝手ナリソノ附記スルハ只々
被告人へ不服ノ意ヲ知ラシムル為メ
ナリ

司法省

訴訟法會議筆記

八年三月十五日
房三十七

司法部

訴訟法會議筆記

八年三月十五日

主タル控訴ト附帯ノ控訴ノ一ニ付少レク説ク
取ロアラントス

主タル控訴ハ負シリトモ勝チタリトモ原告
ニモセヨ被告ニモセヨ先キニ控訴セシモ
ノヲ主タル控訴トナス後ニ訴タリモノニ

附帯ノ控訴トス

元來被告ニモセヨ原告ニモセヨ不服ノモノヨ
リ控訴スルヤリ

仍テ原被トモ不服ノ一アリ原告人モ求メヲ得

司法省

ス被告人モ防キ切レ双方トモ不服ニテ控
訴スル一アリ

ソノ時何レニテモ先キニ訴ヘタルモノヲ主
タル控訴トナス

ソノ一方ニテハ不服ナレモソノテニシテア
ルトキ乙ノ一方ヨリ控訴ヲ為シタルニツキ
餘義ナク甲ノ一方ノ者ヨリ控訴シタルモノ
ヲ附帯ノ控訴トナス

勝訴訟ノモノヨリ裁判言渡昏へ此一ニ付テハ
不服ナルニ付キ控訴ヲ為スヘキ一ヲ附記シ

テ送達シタルキハ控訴ヲ為スルヲ得ル
ト虫氏万一之レヲ附記セサルトキハ控
訴ヲ為スルヲ得ス

之レハ当然ナルコトナリ然ルニ乙ノ一方ヨリ控
訴シタリソノトキハ甲モ控訴スヘント
云ヒテ控訴スルコトヲ得ルナリ

ソノ附帯ノ控訴ハニヶ月ノ期限ノミナラスソ
ノ主タル訴訟ノ裁判ヲ言渡ステテハ控訴
スルヲ得ス

之レハ驚クヘキカ如シト虫氏万一控訴ヲ為ス
司法省

モノニテニヶ月ノ終リノ日ニ控訴ヲ為スト
キハ既ニ明日ハ控訴ヲ為スルヲ得サル
エハ之レヲ許スハ亦当然ナルコトナリ

此事既ニ過日説キタルモ更ニ説キ返シタリ
以下モ控訴ノ期限ヲ説クナリ

ソノ期限ノ起算ハ言渡ノ日ヨリスルニハアラ
ス言渡書ヲ送達シタル日ヨリ起算スルコ
トナリ

仍テソノニヶ月ハ道路ノ距離ニヨリテ延ビル
ナリ

第四百四十四條 前條ニ記シタルニヶ月ノ期

限ヲ過クル時ハ控訴ヲ為スヲ得ス又

如何ナル者邑公舎會社幼者治産ノ禁ヲ受シ者モ此中ニアリト虽ニ其期

限ノ後ニ至テハ控訴ヲ為スノ權ヲ失ヒ唯已

レノ支配人及ビ後見人ニ對シテ償ヲ得ント

スル訴ヘヲ為スヲ得可シ但シ幼者ニ付テハ

其後見人ノ監察者初告裁判所ノ訴訟ヲ自カ

ラ管ロサリシ時ト虽ニ其裁判所ノ言渡及ビ監察

者ト後見人トニ送達シタルヨリ其期限ヲ教フ可シ

此条ニ言フ所口ハニヶ月ヲ過クレハソノ期限ハ決

司法省

シテ取返スヲ得サルトアリ

之レハ旧法ヲ一寸顯ハシタルモナリ

旧法ハ洪水又ハ種々ノ天災等ノ如キ事ニ付

キテハ期月ヲ延スヲ得タリシカ今日ハ

何事アリトモ之レヲ延スヲ得サルコト

ス

又何人ニ於テモ同シ

旧法ハ幼年又ハ婚姻ヲ為シタル婦等ハ都合ニ

ヨリ延ハスヲ得タリシテリ係レ今日ハ

惣テ同シ

旧法ハ海陸軍人ノ為メ又ハ外国へ派出スル
公使等ノ為メニ期月ヲ延シタリシカ今
日ハ同シ

旧法ハ不能カノモノニハ期滿免除ハ中止スル
トヤリシカ今日ハ期滿免除モ延シカケナ
リレ

不能カモノニ為メニハ十年以上ノ期滿免除ハ
中止スルトモ五年以下ノモノハ中止セ
ス

此條ノ大旨ハニヶ月ヲ過クレハ何人タリトモ

司法省

控訴ノ期限ヲ延ハスコトヲ得ス係ニ支配
人又ハ代理人ニ對シテ其抵償ヲ求ムル
コトヲ得ルト云フコトヤリ

如シ幼者ノ為メニ裁判ヲ言ヒ渡リタルト
キニヶ月間ニ控訴ヲ為サシムルトキハ控
訴ヲ為スコトヲ得サルナレモ幼者ヨリ後
見人ニ對シテ償ヲ求ムルコトヲ得ル

婦ニ於テモ夫ニ償ヲ求ムルコトヲ得ル
治産ノ禁モ同シ

幼者ノ為メニハ少シク區別アリ

幼者ノ種類ヲ分ツラニツトス

第一而親ノアル幼者第二後見ノアル幼者而親ノアル幼者ニハ別テ後見人ハナシ

ソノ幼者ノ財産ヲ支配スルニ而親ニテ為スハ後見人ヨリハ仍ホ慥カナリトス万一面親ノ内一人死去スルトキハ残りタル一ツノ親ニテ支配スルナリ

後見ノアル幼者ニモセヨ而親ノアル幼者ニモセヨ後見ヲ免カルミコトヲ得ル

一ツハ親ヨリ明許ヲ以テ免レシム一ツハ親族

司法省

ノ會議ニヨリ免レシムナリ

如シソノ後見ヲ免レタルトキハ半不能カノモノトナス

幼者婚姻ヲナストキハ後見ヲ免カルミナリ

ソノ婚姻ヲ為サストモ免カルミナリ此時ハ治安裁判所へ届ルナリ

如シ後見ヲ免レタル幼者ニ裁判言渡アリタルトキ控訴ヲ為スヤ為サズルヤハソノモノ、意中ニアリ之レヲ為サスレテニヶ月ヲ過シタルトキハソレキリナリ

民法中ニ後見ヲ免カレタル幼者ノ訴ヘテ為
スノ法律アリ不動産ニ付テハ親族會議
ノ許諾ヲケレハ為スコトヲ得ス

不動産ナレハ自カテ為ス

何レノ場合ニテモ被告人ト為ルコトヲ得ルト
虽ヒ許諾ヲケレハ原告人ト為ルコト
得ス

人推シモセヨ不動産ニモセヨ許諾ヲ得テ原
告人トナリタリトモソノ控訴ヲ為ストキ
之レヲ為サシレハソレ切ナリ

司法省

後見ヲ免カレタル幼者ハ初告裁判所ヘテ控
訴裁判所ヘテ訴ヘテ為スハ自由ヲ為
スト見做シテ更ニ監定人アリト為サス
後見ヲ免カレサル幼者ハ自ラ訴訟ヲ為スト
ハ見做サス必ラス後見人アリト為ス
ソノ人ハ幼少ナリヤ又ハ学校ニ居ルヤモ知
ルヘカラス

後見ヲ免カレサレ幼者ノ全ク氣ノ付カサルノ
害ヲ免カルニ為メニソノ言渡し昏ラソノ
後見人へ送達スルコトス

万一後見人ニ送達シタル上ニテ控訴ヲ為サ
ルトキハソノ期限ハ全ク消滅スルモノト
ス

如シ後見人並ニ監定人ハソノ期限内ハ控訴ヲ
為サズルトキハ幼者ヨリソノ人ニ對シテ
ソノ償ヲ求ムルコトヲ得ル

之レハ丁年ニ至リシ後ナリトモ又ソノ時別段
ニ立テタル後見人ヲ以テスルトモ勝手次
第ナリトス

日本ニテ法律ヲ立ツルトキハ全ク幼者ノ為メニ
司法省

別段ニ立ツルカ又ハ他ノ法律ノ如ク各處
ニ散出スルカ何レカ可ナルヤ

佛ノ法律ノ立テ方ハ不都合多シ幼者ノ初告裁
判所へ訴フルコトハ民法ニマリ控訴ノコトハ
此訴訟法ニマル如キ之レナリ

後見人ニ對シテ償ヲ求ムルノ訴ノ期滿免除ハ
十年ナリソノ起算ハ丁年ニ至リシ後ヨリ
算ス

後見ヲ免カレタル幼者モ同シ
兩親ノアリテ後見ヲ免カレシムルハ男ヲトモ十

五年ヨリ

而親ノヤクシテ親族會議ニテ免カレシムルハ
十八年ナリ

而親ナレハ何ノ為メニ早クオストナレハ一旦免カ
レシムルトモ即チ而親ハ監視スルナリ親
族ナレハ早ク免カルシテ我カキラ扱
クノ弊ナリ

併十五年ニテ免カレシムルハ甚夕稀ナ
リ

洪水ニテニヶ月ヲ過クルハ一切ナシ故ニ親

司法省

法ニハ之レヲ除キタリ

只々軍ノ免リタレトキハ之レヲ延スナリ
之レモ裁判所ニテ延スヲ得ス其時
ニ当リ特別ノ法令ヲ以テニヶ月ヲ延ハス
ヲヲ布告スルナリ此布告ニテタトヒニヶ
月ト去ヒタリトモ軍ノ治セルニテハ延ハ
スナリ

是レ控訴ノ期限ノミニアラス民法ニアル所
ノ期滿免除トモ惣テ延ヒルナリ

第四百四十五條 十八百六十二年五月三日如左

改ム一仙蘭西ノ本國外ニ任スル者ハ控訴ヲ為
スニ付初告裁判所ノ言渡書ノ送達ヲ得タル
ヨリ二ヶ月ノ期限ノ上更ニ第七十三條ニ記シ
タル被告人呼出ノ猶豫ノ期限ヲ得可シ
此條ハ第七十三條ヲ見合ハスルコトヲ昏
ネテアリ西ナレハ何日南ナレハ何日喜
望峰ヲ廻ハレハ何日ト昏イテアル所
ト同シ猶豫ノ期限ヲ與フルコトス
若シ日本ニテソノ期限ノ猶豫ヲ定ムルハ
改別ハ暫ク置キ南アメリカキスタリ

司法省

ヤ等ノ通路ノ難キ所口ハソノ難キニ付テ
期限ヲ立テサレハカラス

第四百四十六條一千八百六十二年五月三日如
左改ム公務ノ任ヲ受タルニ因リ伊蘭西ノ本
国外又ハアルセリレノ地外ニ在ル者ハ控訴ヲ
為スニ付キ初告裁判所ノ言渡書ノ送達ヲ得
タルヨリ二ヶ月ノ期限ノ上更ニ八ヶ月ノ猶豫
ノ期限ヲ得可シ又航海ノ為メ外國ニ在ル海
客ニ付テモ同上訴訟ノ期限アリトス
之レハ公務ノ任ヲ受ケタル人ノ控訴ヲ

ナストキノフヲ云フ之レハ仏國ニモ居ラス
又アルセルト去フ屬國ニモ居ラス外國
ニ居ルトキノハケ月ノ猶豫ヲ與フルフ
云フ

併シ外國ハ何レモハケ月トハ理ニ當ラスタト
ハハ隣國ハ「スエス」ニ居ル公使モ日本ニ居
ルモ同シ

案スルニ第百四十五條ニ記シタルモノハ一
倍ノ日數ヲ加ヘタラハ宜シカラシカ

然ラハ「スエス」ハ二ケ月日本ハ十六ケ月トナル

司法省

又航海ヲ為メ外國ニ在ル海客ニ付キテモ云々
ハ官負ニハアラヌ私用ノ為メニ航海マ
ルモノナリ之レモ同前ニテ仏ノ近海ニ
アルモノモアルハシ

航海者ニ猶豫ヲ與フル官負ニ同シキハ當
然ナレフナリ何トナレハ航海ハ國ヲ富
ス為メニ為スモノナレハナリ

政府軍艦ニ乗ルモノモ同シ

公務ノ為メ外國ニ在ルモノハ本務ナリテ傍

ノ私事ノ訴訟ヲモ為スモノナルユハ年人
ヨリハ少シク猶豫ノ期限ヲ多クスル方
然ルヘク歟

コラツクノ海峡ヲ過キタルモノハ八月ハ
卒人ノ為メニハ長キニ過キ官負ノ為メニ
ハ短カキニ過シルト思フナリ

第四百四十七條 控訴ヲ為ス可キ期限ノ経
過ハ初告裁判取ニテ負訴訟トナレシモノ、
死去シタル日ヨリ之レヲ止ムハシ

其期限ハ第六十一條ニ記シタル法式ヲ以テ死
司法省

者ノ住所ニ初告裁判取ノ言渡書ヲ送達シ
タル時ヨリ再ビ之レヲ算ヘ始ム可シ但シ死
者ノ遺物相続人目録ヲ記シ熟考ヲ為ス可
キ期限ノ終ラサル前ニ更ニ其言渡書ヲ送
達シタル時ハ其期限ノ終ル時ヨリ再ビ控
訴ノ期限ヲ算ヘ始ム可シ

初告裁判取ノ言渡書ヲ死者ノ住所ニ更ニ送
達スルニハ遺物相続人ノ各時ノ姓名及ヒ
身分ヲ記スルヲテ其連名宛ヲ以テ之レヲ
為スヲ得可シ

之レハ初告裁判所ニテ負訴訟トナリタルモ
ノハ死去シタルトキハ控訴ノ期限ハソノ
死去シタル日ヨリ中止スルナリ

ソノ後目錄ヲ記魁考ヲナスヘキ三月四日
ヲ過タル後更ニソノ裁判言渡各ヲ送達
スルナリ

ソノ送達シタル日ヨリ再ヒ控訴期限ノ日教
ヲ教ヘ繼クヘキナリ

此條ハ實ニ不幸ナル條ナリ死後相續ヲナシ
タルモノハ多少愁傷ノ情アリテ訴訟ノ

司法省

コヲ考フルコトハ六ツケレキコトナリ

然ルニ前ニ二十日ヲ過クレハ更ニソノ後ノ教ハ
繼クハ二十日ニ教フルコトナレユヘ時ニ
ヨリテ控訴ノ期限ヲ過クルコトアル
ヘシ

仍テ親ノ死シタルトキハ再ヒ二ヶ月ト為シ
タラハ宜シカラシ

或ハ親ノ生前ニ期限三十日ヲ過キサルトキ
ハ更ニ一ヶ月ヲ與フル方可然教

タトハハ四十日ヲ過タラハ更ニ二十日ノ猶

豫ヲ與フルカ如キ之レナリ

相續人ニ對シテハ三ヶ月四十日ノ猶豫ヲ與
フル一ユヘ隨分寛大ナルモノ、如レト異ヒ
相續ヲ為スヤ為サ、ルヤノ思考ヲ為ス
ニ付テハ控訴ノ一ヲ思考スルニ暇マラサ
ルナナリ

第三項ニ言フ所ノ言渡ヲ送達スルニ相續人中
ト昏イテ姓名ヲ昏カスニ之レヲ送達ス
ルトモ苦シカラス然ルニ之レヲ各自ニ
一人ニ宛テ、送達スルトキハ万一頁ケ

司法省

タルトキハ訴訟入費ノ多クナルユヘ便
益ヲ失ヒレ歟

訴訟法會議筆記

第三十八號

司法省

第四百四十八條

初告裁判取ニテ實造ノ証昏

ニ據リ裁判言渡ヲ為シタル時又ハ一方ノ者其

相手方ノ為メ己レノ証昏ヲ陰藏セラレ之ヲ

差出スヲ得サルニ因リ初告裁判取ニテ負

訴訟トナリシ時ハ後ニ其相手方其証昏ノ

實造ナルヲ自認シタル時ハ裁判取ニテ

其實造ナルヲ証シタル時又ハ相手方ノ陰

造シタル証書ヲ取返シタル時ヨリ控訴ノ期

限ヲ算フ可レ但相手方ノ陰藏シタル証昏ヲ取返

司法省

シタル時ハ之ヲ取返セレ日ヨリ証明スルヲ得可

キ証昏アルヲ必要トス

第四百四十八條第四百四十九條ハ控訴ノ期限ヲ云

フモノナリ

之レハ別段ナルヲヨリテ控訴ノ期限ヲ起算

スルヲ云フモノナリ

此條ハ裁判中ニ實造ノ証書タルヲ見出ス

ヲ得サル為メニ負ケタリソノ後實造ナル

ヲ見タレタル日ヨリ控訴ノ期限ヲ起算

スルヲ云フモノナリ

此取口ハ宜シク區別セサルヘカラス

裁判中ニ贋造ナリト見タレタルトキハソノ贋造
ヲ以テ裁判セシトキハソノ言渡唇ヲ送達セ
レ日ヨリ起算スルト虽比此取口ハ裁判
中ニハ贋造ナルコトハ必シモ知ラスレテ後
ニ見出レタルトキノコトナリ
併シ知レタルノミニテハナラス即チ知レタル
如クニテ裁判ヲ受ケサルヲ得ス之レハ他
ノ條ニ昏イテアルナリ

第二節ハ慥ナル証唇アリテモ相手方ニテ押
司法省

ヘタルヒツキ之レヲ出スコトヲ得サルト
キコトナリ

ソノ証書ノ手ニ入りタル時ノコトナリ

其時ハソノ手ニ入りタル証據ヲ立テカレヘカ
ラス

証ヲ立ツルハ人ニテハナラス必ス書付ヲ以
テ証ヲ立テカレヘカラス

如斯書物ヲ以テ証ヲ立ルコトナレタルハ既ニ
ソノ証唇ノ手ニ入りテモ之レヲ出サスレ
テ控訴ノ期限ヲ延ス等ノ詐偽アルヲ防ク為

メナリ

其書付ヲ一方ノ者ハ送達スルニテ是レリ如
シ故障アレハ裁判ヲ乞フナリ

之レハ一般ノ公益ニ関スルコトナリ一方ハ送
達スルニテ是レリト虽此時ニヨリテ裁
判取ニテソノ書付ヲ一覽スルコト望ム
コトモアルヘシ

此自認スルニハ限りナシ三十年ヲ過キタリ
トモ宜シ

法律上ニテ誤リヲ改正スルコト付テハ期

司法省

満免除ニ関係セサルナリ

既ニ控訴スヘキニヶ月ノ期限ヲ破ルニ於テ
ハ三十年期限ニハ関係セス

第四百八十八條ヲ參照スヘシ

第四百四十九條 及ニ執行ヲ可キモノニ非サル

初告裁判取ノ言渡ノ控訴ハ其言渡ノ日ヨリ
八日内ニ之レヲ為ス可カラス若シ其期限内
ニ為シタル控訴ハ控訴院ニテ之ヲ取上ケル可
但シ猶ホ控訴ヲ為サント欲スル者ハ之ヲ為
シ得可キ期限内ニ更ニ控訴ヲ為スコトヲ得可シ

第四百五十條 仮ニ執行ヲ可キモノニ非サル初告
裁判所ノ言渡ハ前條ニ記スル八日ノ期限間
其執行ヲ延ス可シ

此條ハ控訴ハ言渡アリテヨリ八日内ニハ決
シテ為スヘカラスト云フナリ

之レハ負訴訟ノモノハ怒氣アルモノナリソ
ノ怒氣ヲ帯ヒテ控訴ヲ為シソノ為ニ再
ヒ負クルナアルヲ防クモノナリ

控訴期限ハ言渡各ヲ送達シタルヨリニテ
月ナリ然ルニソノ送達スルニハ寫ヲ依ル

司法省

等ノ手数ノカクルモノニテ八日内ニハ實際
ニ於テ出来ケルモノナリ

八日内ニ控訴ヲ為シタルキハ控訴裁判所
ニテハ押シ返スナリ

ソノ控訴人ハニヶ月間ニ再ヒ控訴スル
ナリ負ケタルモノハ八日内ニ控訴ヲ為ス
ナラ得ス又勝テタルモノニテモ八日内ニ
執行スルナラ得ス是レ同シ推衡ナリ

仮ニ執行スヘキ訴訟ハ控訴モ直チニ為ス
ナラ得ルナリ

ホアソナード案スルニ八日内ニ控訴スルコトヲ
得スト昏イテアルハソノ本人ノ後見ノ如キモ
ノナリ豈ニ奇ナラスヤソノ本人ノ心次第ニテ
可ナル可キナリ

法律ハ一ツノ定メナリ用ヒテ是ラサルモ用
ヒ過クスモソノ人ニ存スルコトナリ

控訴ハ為シ始メタリトモ之レ遂ケサルヘカラ
スト云フニアラス何時ニテモ悪シキト思フ
トキハ之レヲ止ムルコトヲ得ヘシ

然ラハ此条ヲ立ツルニ及ハスト思フナリ

司法省

第四百五十一條 訴訟ノ本案ニ管セサル預審
ノ裁判言渡ノ控訴ハ確定ノ言渡ノ後其確
定ノ言渡ノ控訴ト共ニ之ヲ為ス可ク且其
控訴ノ期限ハ確定ノ裁判言渡昏ノ送達ヲ
得タル日ヨリ之ヲ數フ可シ但シ其預審
ノ言渡ノ執行ヲ受タル時後ニ控訴ヲ為
スコトアル可キ旨ヲ断リ置カスト虽モ控
訴院ニテ其控訴ヲ取上リ可シ

本案ニ管ス可キ預審ノ言渡ノ控訴ハ確定ノ言渡ノ
前ニ之ヲ為スコトヲ得可シ又及ニ執行ス可キ言渡ニ付

テモ確定ノ言渡ノ前ニ其控訴ヲ為スコトヲ得可シ
第四百五十二條 訴訟ヲ吟味シテ確定ノ裁判ヲ為
スヲ得可キニ至ラシムル手續ニ付テノ言渡
ヲ本案ニ管セサル預審ノ言渡トス
裁判取ニテ確定ノ裁判言渡ヲ為ス前證據各ヲ
以テ證ヲ立ツル事書類ノ驗真ヲ為ス事
又ハ其他本案ニ管スル吟味ノ手續ニ付キ為シ
タル言渡ヲ本案ニ管スル預審ノ言渡トス
裁判言渡ノコトヲ説キタル時ニツノ言渡シニ區別
ノアルコトヲ言ハサリシナリ

司法省

確定ノ裁判トナル以前ニ本案ニ管セサル裁判
アリ
之レコトヲ説キタルモノハ確定ノ裁判ノコトナ
リ
此知ハ本案ノ確定裁判ヲ為ス前ニ裁判スル
コトナリ

之レヲ分ツテ三トス又三ツノ名アリ
ゼジュメンプレパトワール（預備 被告人呼出ノ裁判
言渡）
ゼレメンプロウエツワール（後ノ裁判言渡）
アンテローロキエトワール（預審 裁判手ツミキノ未タ
全ク整ハサル間ニ裁）

判ヲ為スト
ニフ意

ソノ區別ヲ説カントス

預備ノ裁判言渡ハ格別肝要ナルモノニアラ
ス本案ヲ裁判スル預備ヲナスモノナリ

之レハ訴訟ヲ為ス本人ヲ呼ビ出スト云フ言
渡ヲ為スナリ

仮ノ裁判言渡ハ本案ニ管セサル裁判ノ言渡
ナリ

タトヘハ婦ニテソノ夫ヲ訴ヘタルトキソノ本案
ハ未タ裁判セサル間ニ別居中ノ養料等ノ

司法省

裁判ヲ言渡スナリ

タトヘハ被告人ノ手ニ物件アルトキソノ本
案ノ裁判ヲ為ス前ニソノ物件ノ減尽スヘ
シト思考スレバ之レヲ他人ニ預クル言

渡等ナリ

ソノ裁判言渡ニ付テハ直子ニ執行スルコトヲ得ル
ヤ又ハ直子ニ控訴スベキヤ又後ニ控訴スル
コトヲ得ルヤヲ書イテナキユヘ之レハ直子
ニ控訴スルコトヲ得ルト為ス

第一ノモノハ本案ト共ニスルニアラサルハ控

訴ヲ為スルヲ得ス

第二ハ控訴ヲ為スルヲ得ル

第三ノ預審ニ於テハ既ニ本案ノ裁判ノ模
様ヲ知ルニ足ルナリ仍テ第一第二ノ
モノトハ違フナリ

此預審ノ裁判ハタトヘハ人ヲ以テ証ヲ立テ
ルカ又ハ誓ヲ立ツル等ニ付テハソノ本案
ノ裁判ノ模様ハ一方ノモノヘ知レルナリ
ソノ第一第三ノ一ニ付テハ第四百五十二條ニ
アリ

司法省

此三ツノ裁判ニ付テハ控訴ヲナストキソノ
本案ノ裁判ハ遅延スル訳ナリ

仍テ第二第三ノ裁判言渡ハ控訴ヲナスルヲ
得ルト雖モ第一ノ言渡ハ之レヲ控訴マ
ルコトヲ得ス之レハ格別肝要ナルコトニア
ラサルユヘナリ

預審ノ裁判ハ書キモノモナク裁判スルナリ
タトヘハ一方ニテハ人ヲ以テ証ヲ立テト
云フトキ他ノ一方ノモノニテハ書キモノニ
ラサレハ証トハナラズト云ヒテ争フトキ言

業ヲ以テ人ヲ以テ証ヲ立テヨトカ立ツハ
カラストカ裁判ヲ言渡ス^フ言フナリ
人ヲ以テ証ヲ立^テヨト裁判ヲ為シタルニツキ
他ノ一方ノモノト害ト為ルトキハ直チ
ニ控訴ヲ為スナリ

間 地取ノ争ヒニ付実地検査ノ言渡ハ預審
ニ入ルヘキヤ

答 ヲレハ預備ニ入ルヘキナリ何トナレハ未
タ本案ニ害ヲ生セサレハナリ

本案ニ害ヲ生スルモノハ惣テ預審ノ裁判ニ
司法省

入ル

更ニ一ツノ面倒ナル^フアリ之レハ第四百五十
三條ニアリ

第四百五十三條 始審ノ裁判言渡ヲ為ス可キ
訴訟ニ付キ初告裁判所ニテ為シタル裁判
言渡ハ終審ノ言渡ナリト記シタル時ト或
レ之ヲ控訴スル事ヲ得可シ

終審ノ裁判言渡ヲ為ス可キ訴訟ニ付キ初告
裁判所ニテ為シタル裁判言渡ハ終審ノ
言渡ナリト記スル^フナリ又ハ始審ノ言渡ナリ

十記シタル時ト虽氏其言渡ヲ控訴スルコトヲ得ス
タトヘハ確定ノ裁判アリソノ裁判言渡昏ニ
ハ初審ヲ以テ言渡ストカ又ハ終審トカラ
書カサレヘカラス然ルニ裁判官ニテ誤テ
初審ヲ終審ト昏キ終審ヲ初審ト昏キタリ
ソノ裁判言渡昏ノ誤リテ以テソノ控訴スル
コトヲ得ルト得サルトニハ関セズ

初審ヲ終審ト書キタリ仍テ控訴スルコトヲ得
ル終ヲ初審ト書キタリトモ控訴スルコトヲ得
ス

司法省

元来此条ハ益ノ少ナキモノナリ
然ルニ第四百五十七条アルニツキ少シク用
ヲ為スナリ

第四百五十七條 確定ノ裁判又ハ本案ニ管スル
預審ノ裁判言渡ノ控訴ヲ為ス時ハ其裁
判言渡ノ執行ヲ止ム可シ但シ別段法律
上ニ定メタル場合ニ於テ仮ニ其言渡ノ
如ク執行ス可キコトヲ定メタル時ハ格別ナリトス
初告裁判取ニテ終審ノ裁判言渡ヲ為ス可カラ
ザル事行ニ付キ誤テ終審ノモノナリト記シタ

ル言渡書ノ執行ヲ止ムル為メニハ控訴ヲ為
ス者相手方ヲ定期ヨリ更ニ短キ時間ニ控
訴院ニ呼出シ其吟味ノ席ニテ其執行ヲ
止ム可キノ言渡ヲ受ク可シ

初告裁判所ニテ終審ノ言渡ヲ為スルヲ
得可キ場合ニ於テ其言渡ヲ終審ノモノナリト記
セス又ハ終審ノモノナリト記シタル時ハ控訴ノ被
告又其代各師ヲシテ控訴ノ原告人ノ代各師
ニ招書ヲ送ラレメ之ヲ控訴院ノ吟味ノ席ニ呼
出シテ其初告裁判所ノ言渡ヲ仮ニ執行ス可キ

司法省

ノ言渡ヲ受ケルヲ得可シ

第四百五十七條ノ第ニ項ト第ニ項トヲ説カント
ス

控訴ニハ二ツノ原因アリ

控訴ハ裁判執行ヲ中止スルモノナリ但シ仮
リニ言渡ヌモノハ此限ニアラス

控訴ヲ以テ執行ヲ中止スルニハ規則ニ違
フカ又ハ外見ハカリモ控訴ヲ為スルヲ
得ルノ模様アルトキノヲナリ

此場合ニ於テハ規則ノ立ケ他ノ場合ニ於テ

ハ規則ノ立タルモノト見做スナリ

第四百五十三條ニ言フ所ロニテハ誤ツテ書
キタルトキハ控訴ニハ關係セストアレモ
第四百五十七條ニ云フ所ロノ場合ニテハ
ソノ裁判ハ控訴院ニテハ規則ニ違ヒタ
ルモノト見テソノ執行ハ中止セス
之レニ及シテ初審ト昏イテアルトキハ五百
フランクニ滿タサル裁判ナルユハ控訴ヲ為
スコトヲ得スト云フトキ之レハ初審ト
書イテアルナリ

司法省

控訴スルコトヲ得ヘシト云フナリ

ソノトキハソノ執行ヲ中止スルナリ

依テ初審終審ヲ書キ誤リタルモノハ大關
係ヲナス

誤テ初審ト書キタルモノハソノ終審ノ

誤リノ証ノ出テサル間ハ執行ヲ中止ス

ルナリ誤ツテ終審ト昏キタルモノハソノ

誤リノ証ノ出テサル間ハ執行スルナリ

ソノ誤リニ付キ害ヲ生シタルヤハ之レヲ

補フノ方法アリ

初告裁判取ニテ初告ヲ誤テ終審トカキ
タルニツキソノ言渡書ヲ以テ控訴シタ
リソノ中執行ハ中止セスレテアルユヘ
控訴裁判取ニテソノ執行ヲ中止スヘレト言渡スナリ
タトヘハ初告裁判取ハ二千フウニクヲ訴ヘ
タリ然ルニ誤ツテ終審ト書キタリ之レハ
控訴ヲ為スコヲ得サレ訴訟ノヤウナレト
ソノ誤書ナルヲ以テ控訴セリ控訴裁判
取ニテハ言葉ヲ以テソノ執行ヲ中止スル
ノ言渡ヲ為スナリ

司法省

之レニ及シテ初告裁判取ニテ終審ヲ誤ツテ
初審ト書キタリ仍テ控訴ヲ為シタルト
キソノ言渡昏ニテハ執行ヲ中止スヘキト
見ユルナリソノ中ハ控訴裁判取ニテ執行ヲ中
止スヘカラスト言渡スナリ
タトヘハ千フウニクノ訴訟ヲ終審ト言渡ス
ハキラ誤ツテ初審ト書キタルヒヨリテソノ
執行ヲ中止スルナリソノトキハ控訴レテ執
行ヲ中止セシメサルカ言渡ヲ乞フナリ
如シ初審終審ノ文字ヲ書スレテ言渡シタ

ルトキハ之レヲ控訴スヘキヤ又ハ之レヲ為
スヘカラサルヤ

然ルニ之レヲ控訴シタリツノトキハ控訴マ
ルコトヲ得ヘント見ルモノハ執行ヲ中止スル
ナリツノトキ一方ノモノニテ之レハ中止ス
ヘキモノニアラスト云フトキハ執行ヲ中止
セシヤス

第四百五十四條 初告裁判所ノ管轄ヲ受ケサレ
コトニ管シタル訴ニ付テハ其裁判所ニテ終
審ノ裁判言渡ヲ為スト虽モ其言渡ヲ控

司法省

訴スルコトヲ得可シ

此條ハ說キタル取口ニ說キツレケサレヘカ
ラス

之レハ管轄ノ違ヒタル裁判所ニテ終審ノ
裁判言渡ヲ為シタルトキノコトナリ

之レハタトヒ至当ノ裁判ニモセヨ控訴スル
コトヲ得ルヤリ

一說アリタトヒ管轄ノ違ヒタリトモソノ本案
ヲ害スル裁判ニアラサレハソノコトニテ可ナ
ルカ如シ

然ルニ千五百フリンクニテノ金額ハ初告裁
判取ニテ終審ヲ為スヘシト虽比相当ノ裁
判所ニテ裁判スルニマラサレハナラケル法
律ナリ

問
タトヘハ人権ナレハ被原人任取ノ裁判ナラ
ケルヘカラス然ルラ他ノ裁判取ニテ裁判ヲ
言渡シタルトキハ法律ニ背クニヘ之レヲ控
訴スルコトヲ得ルナリ
誤書セシニヨツテ控訴トナリタル入費ハ裁
判取ヨリ出スヘキヤ

司法省

答
否ラスタトヒ誤書シタリトモ訴訟人ニテ
承諾スレハアレ切リナリ然ルニ言ヒ張り
テ控訴ヲ為スニヘソノ負ケタルモノヨリ
持フヘキナリ
タトヘハ甲ト乙ト訴訟ヲ為シタリソノト
キ初告裁判取ニテ甲ハ負ケタリ仍テ控訴
ヲ為シタリ
ソノ控訴ニテ甲勝チタリ
ソノ訴訟入費ハ初告裁判取ノ入費ニテモ
乙ニテ之ヲ持フナリ

第三十九号

訴訟法會議筆記

八年三月廿五日

司法省

訴訟法會議筆記

八年三月廿五日

過日説キタル終審初審ノ書誤リノフニ付テ
更ニ説ク所口アラントス

初告裁判取ニ於テ終審初審ノ裁判ヲ為スニ
只裁判言渡ストハ云ハス初審トカ終審
トカ言渡サキル可カラス

時ニヨリ初審終審ヲ誤リ又ハ全ク言ハサレ
アリ

裁判官ニテ誤リテ言渡スニ初審ヲ終審ト言
ヒ終審ヲ初審ト言ビシルトキ控訴ノ妨テ

司法省

トハナラス

元ヨリ千五百フランク以上以下ニ付テ控訴ス
ルヲ得レト得サルノ制限アレハナリ

タトハ終審初審言渡ストモ一方ノモノ不承認
ナレトキハ控訴スレテ得ヘレトモ終

審ト昏キタリトモ真ニ終審ナラハ之レテ
取揚テ誤リナレトキハ之レヲ取揚ルナリ

ソノ金額ノ控訴スルモノナレハ取揚ルトモ
モ金額ノ控訴スヘカラサルモノナレハ
取リ揚ケス

併シソノ裁判入費ハ之レヲ出サズルヘカラス
書キ誤リヲ以テ取揚ル取揚ケサレニアラスソ
ノ金額ヲ以テ取り揚クモ取揚ケサルモ
アルナリ

係シ終審初審ト書キタルモノハ聊カ関係ナ
キニアラス

何トナレハ終審ト書キタルモノハ外面ヨリ見
レハ控訴ヲ為スコトヲ得ルカ如シ初審ト昏
キタルモノハ為スコトヲ得ルカ如シ

タトヘハ控訴ヲ為スコトヲ得ル裁判ヲ終審ト

司法省

去ヒ渡シタリ之レハ控訴ヲ為スコトヲ得ス
ト見ルユヘ執行ヲ如メタリソノトキハソノ
本案ノ訴ヲ為サズル前ニソノ執行ヲ止ムル
コトヲ訴フレハ裁判官ハ一應取調ヘタル上
ソノ執行ヲ中止スルナリ

終審ノ裁判丈ケノ訴ヲ為シタルトキ初審ト云
渡シタルコト付外面ヨリ見レハ控訴ヲ為ス
コトヲ得ルト見ユルニツキ執行ヲ為サズル
ナリソノ中控訴ヲ為シテ執行ヲ始ムヘキ旨
ヲ願フトキハ裁判官ニテ之レヲ執行スヘキ

ト言渡スナリ

第四百五十五条ト第四百五十六條ヲ置キテ第四百五十八條ト第四百五十九條ヲ説カントス
第四百五十八條 若シ初告裁判所ノ言渡ヲ假
ニ執行フヘキ場合ニ於テ之レヲ言渡サレル
時ハ控訴ノ被告人其代書師ヲシテ原告人
ノ代書師ニ招書ヲ送ラシメ其原告人控訴
院ノ吟味席ニ呼出シ控訴ノ裁判言渡ノ前
ニ初告裁判所ノ言渡ヲ仮ニ執行フ可キノ
言渡ヲ受クルコトヲ得可シ

司法省

第四百五十九條 別段法律上ニ定メタル場合第三十五

条ニ見合セニ非スシテ初告裁判所ヨリ其言渡シテ仮

ニ執行フ可キコトヲ言渡シタル時ハ控訴ノ
原告人定期ヨリ更ニ短キ時間ニ控訴ノ被
告人ヲ控院ノ吟味ノ席ニ呼出シ其執行ヲ
止ム可キノ言渡ヲ受クルコトヲ得可シ但シ其
原告人定期ヨリ更ニ短キ時間其被告人ヲ
呼出ス可キ願昏面ヲ被告人ニ送ルコトナリ
直ニ其上席人ヨリ初告裁判所ノ言渡ノ
執行ヲ止メンム可カラヌ裁判言渡ノ

ヲ説キタル取ロニテ一時執行セサルヘカ
ラサルトキハ依リニ裁判ヲ言渡スルヲ
説キタリ

タトハハ法律上ニ於テ至急ノ執行ヲ言渡スヘ
キ場合又ハ裁判官ニテ至急ノ執行ヲ言
渡スヘレト思量スル場合ニテハ依リノ執
行ヲ言渡スナリ

之レニ及ンテ至急ニ執行ヲ為スヘキ場合ニ
於テ依リノ裁判ヲ言渡サニリシナリ
タトハハ誤リテ言渡ス可カウサルヲ言渡シ

司法省

タリトモソノ言渡シタル裁判ヲソノ裁判
取ニテ之レヲ取ナラスルヲ得ヌソノトキ
ハ控訴裁判取ハ願ヒテソノ執行ノ言ヒ
渡ヲ受クルヲ得ヘシ

第四百五十八條之レナリ

之レハ既ニ控訴ヲ生シタルトキノ場合ヲ
以テ云フ

如シ依リノ執行ヲ言渡スヘキ場合ニアラスレテ
言渡シタルトキハ之レヲ控訴裁判所ハ
訴ヘテソノ執行ヲ中止スヘシ之レハ第四

百八十九條ニアリ

此條ハ未タ控訴ヲ為サス仍テ定期ヨリ更ニ短
カキ時間ニ控訴ノ被告人ヲ控訴裁判所
ニ呼出ストアルナリ

原則ナレハ八日内ハ勝テタルモノモ執行セス
負ケタルモノモ控訴セヌ然ルニ之レハ
仮リニ執行ノ言渡シアリタルトキノ
ナリソノトキハ勝テタルモノヨリ控訴
セサルヘカラサレテナラズモナリ

司法省

第四百五十八條ノ未ニ如シ未タ控訴ヲ為サ
レトキハ勝テタルモノヨリ定期ヨリ更ニ
短カキ時間ニ控訴ヲ為シテ仮リニソノ
執行又ヘキノ言渡ヲ受クルヲ得ヘシ
トノ文ヲ補込スヘシ

第四百五十九條ノ場合ニ於テハ忽チ八日ノ期
限ハ過ルニ付キ控訴ノ本案ハ之レヲ置キ
急ニソノ執行ヲ中止スルヲ訴フ可シ
如シ之レヲ為サレトキハ仮リノ執行ハソノ
テニソノキ控訴ハ八日ヲ過キサレハ為ス

トヲ得サレナリ

此條中ニアリテ「フアンス」ト云フ字ハ禁スレト云
フ意味ニテ通常ハ棄白又ハ答弁ノ意味
トハ違フナリ

元來敬慎ノ願書ヲ以テ訴フル「一方」ノモ
ノへ通知シテソノ承諾不承諾ノ返答ヲ
得スレテ為ス「ヲ」得ス万一方ノモノ、
返答ヲ得サルトキハ双方裁判席へ出テ
タルトキ之レ取調へニ裁判ヲ為スナリ
其被告人ヲ呼出スヘキ願書ヲ云々之レナ

司法省

リ

第四百六十條 前條ニ記シタル場合ノ外ハ
控訴院ヨリ初告裁判所ノ言渡ノ執行ヲ禁
シ又ハ如何ナル方法ヲ問ハス之レヲ止ム可
キノ言渡ヲ為ス可カラス若シ此規則ニ背
キ控訴院ニテ為シタル言渡ハ其効ナカル可シ
此第四百六十條ハ旧法律ノ餘韻ナリ

前條ノ外ハ控訴院ニテ初告裁判所ノ言渡ノ執
行ノ禁スヘカラス如シ禁シタルトキハソノ
効ナシトスルナリ

以前ハ偽証又ハ証書ヲ隠ス等ニ付テ敬慎ノ願
書ヲ以テ願ヒタルトキハ執行ヲ止メ又ハ
執行セシムルコトアリタリ今ハ之レヲ禁シ
タリ即チ此条之レナリ

此場合ニハ此ノ如シト多事件ソノ法律アル上
ハ此条ハ不用ナリ

法律中ニ不用ノ條アルハ惣テ旧法律ノ餘韻ナ
リ

第四百五十五條ニ還ル

第四百五十四條 初告裁判所ノ管轄ヲ受ケサ

司法省

ルコトニ管シタル訴ニ付テハ其裁判所ニテ
終審ノ裁判言渡ヲ為ス時ト虽モ其言渡ヲ
控訴スルコトヲ得ヘシ

此条ハ欠席裁判ヲ受ケタルトキハソノ故障ヲ
述フル期限ト控訴ノ期限トヲ區別スルコ
トヲ云フモノナリ

欠席裁判ニ代昏師ヲ立テタルト立テサレトノ
二様アリ何レモ期限ノ違フモノナリ

此レハ頗ル一方ノモノヲ惠ミタル余ナリ又トヒ
タトヘハ故障ヲ述フヘキ時間ニ控訴ヲ為スト

キハ未夕故障ノ時間アリト云ヒ之レヲ止マ
テ故障ヲ述フルヲ得ルモノナリ

故障ヲ述フヘキ時間ニ控訴ヲ為ストモ故障
ヲ云フヲ得サルニアラス控訴ヲ為スヘ
キ時間ニ之レヲ為サステ上告ヲ為シタ
ルトキハ控訴ヲ為スヲ許サミルニアラス
仍テ故障ヲ述フヘキ時間ニハ先ツ單一ナル
故障ヲ述ル方ニ為スヘキヲ云フモノナリ

夕トヘハ代書師ヲ立テソノ代書師ニテ見込書ヲ
出サステテ欠席裁判トナリタルトキハソノ

司法省

故障ヲ述ヘキ時間ハ八日ナリトス

此八日ヲ過クレハ控訴ヲ為スヨリ外ハナシ
控訴ヲ為スヘキニケ月ハ故障ヲ述フヘキ八日ヲ
過キテ起算スルナリ

代書師ヲ立テスレテ欠席裁判トナリタルトキ
ハソノ執行ヲ始メタルヨリ誓ント終ルニ
テハ故障ヲ述フルヲ得ルナリ既ニ其執
行ヲ終リタル上ハ故障ヲ述フルヲ得ス
然レニ控訴ヲ為スヲ得ル

ソノ場合ニ於テハ尋常ノ控訴トハ違フナリ元

未控訴ハ裁判ヲ中止スルモノナリ此控訴
ハ負ケヘカウナル訴訟ニ負ケタルニハ裁
判執行ヲ取戻スヲ乞フモノナリ

出席裁判ニ於テ訴訟ニ負ケタリトモ本心ニテ
拵ヒタルニアラザル執行ハ控訴ヲ為ス
ヲ得ル

ソノ本心ナルトキハ請取書アリ本心ナラザル
ハ勝訴ノモノヨリ財産ヲ取押ヘテ強テ
賣ツタルトキ等ニテ受取各ヲ出ス
ルニキヤリ

司法省

承諾不承諾ノ區別スルニハ受取書ヲ有
テスルナリ

欠席裁判ナリトモ本心ヨリ承諾シテ執行
ヲ為シタルトキモ即チ控訴ヲ為ス
ヲ得ス

以下控訴ノ式ヲ説カントス

第四百五十六條控訴書ニハ法律ニテ定メ
タル定期内ニ相手方ヲ控訴院ニ呼出ス
旨ヲ記シ之レヲ其相手方本人又ハ其住
所ニ送達ス可シ若シ其法式ヲ行ハサ
ル時ハ書面ノ効ナカル可シ

此條ハ控訴ノ呼出シテ掛ルヲナリ定期限内トハ呼
出状ヲ送達シタルヨリ裁判所へ出ツルハハ
日ノトナリソノ路程ノ遠近ニヨリテ差違
ヒアルト兼ニソノ呼出状ヲ本人又ハソノ任
取ニ送達スルト惣テ初告裁判所ノ式ト同シ
如シ其法式ヲ行ハサルトキハソノ呼出状ノ効ナシ
トス

控訴書ニハ我不承諾ノ條件ヲ書キソノ下ニ右
ニ付キ裁判所へ呼出スルヲ書クモノナリ
先ツ不承諾ノ旨ヲ言送り後ニ呼出書ヲ送ル

司法省

ヲ許サス必ラス不承諾ニツキ裁判所へ出ツ
ヘント云フト定ムルナリ

此控訴書ハ通常ノ呼出状トハ異ナリ

タトヘハ裁判ニツキ不服ナルトキ一方ノモノヘ
先ツ控訴状ヲ送達シテ一時旅行ヲ為ス等
ノ由リ控訴ヲ受クルモノニテハ何時控訴
ヲ受クヘキヤト恊心ヲ生スルヲ好テス故ニ
控訴ヲ為スニ於テ直チニ呼出スルト定メ
タルナリ

第四百六十一條

初告裁判所ニテ書面ニ因リ吟

味ヲ為シタル訴訟ノ裁判言渡ト虽之
レテ控訴スル時ハ書面ヲ用ヒス直ニ
控訴院ノ吟味ノ席ニ其控訴ヲ為ス可レ但
控訴院ニテ格別ノ道理アルト思量スル時ハ再
ビ書面ニ因テ之レテ吟味ス可キヲ言渡ス可レ
初告裁判所ニテ書面吟味ヲ為シタルモノヲ控訴ス
ルトキハ控訴裁判所ニテハ必ラス書面吟
味ヲ為スニ及ハス但シ格別ノ道理アルトキ
ハ唇面吟味ヲ為スヘキヲ得可キヲ
云フモノナリ

司法省

第四百六十二條 控訴ノ被告人代書師ヲ任シタル
ヨリ八日内ニ控訴ノ原告人ハ初告裁判所ノ
言渡ニ兼服セサル憑拠ヲ唇面ニ記シテ被告
人ニ送達シ其被告人ハ其後八日内ニ唇面
ヲ送ル可レ但シ其他ノ手續ナル原告人ヨリ
被告人ニ吟味ノ席ニ出ツヘキヲ要ム可レ
控訴ノ原告人ヨリ呼出状ヲ送リタルトキハ控訴ノ
被告人ニテハ八日内ニ代書師ヲ立テサル
ヘカラス之レハ控訴裁判所ノ代唇師ナリ
ソノ代書師ヲ立テタルヨリ八日内ニ控訴ノ原告

人ハ初告裁判所ノ言渡ニ承服セサル証據
ヲ委シク書面ニ記シテ被告人ニ送達スル
ナリ

初告裁判所ノ訴訟ハ何時ナリトモ妨ケヤシトモ
以テ控訴ヲ為スニハ二ヶ月ノ期限アルユヘ控
訴審ニハ委シク記スル時間ナキトモアリ

其被告人ハ其後八日内ニ答弁書ヲ送ルナリ

併ニテハ法律審ニ裁判所ニ出席スト書キタル
モノハ實際本人ノ出席スルコトナレ皆代審
師ヲ立テタルコトナリ之レハ原被告トモ同シ

司法省

既ニ代書師ヲ任シタル上ハ書記局ノ簿冊ニ記
入スルナリソノ記入ノ順序ニ從ツテ裁判ト
ナル

ソノ後八日ヲ過キ招書ヲ送りテ双方トモニ裁
判所へ出席スルナリ

仍テ双方裁判所へ出席スルコトテハ三十日ヲ費
ヤスナリ

呼出状ヲ送りテ控訴ノ被告人ニテ代書師ヲ立
ツルテテマレ八日

即チ十日 此ハ路程ノ遠近ニヨリテ
差違ヲ生ズヘシ

ソノ後控訴ノ原告人ニテハ八日内ニ不承服ノ旨
ヲ送ルニル八日即チ十日

ソノ後控訴ノ被告人ニテ答弁書ヲ送ルハニル
八日ナリ即チ合セテ三十日トナル

司法省

訴訟法會議筆記

第四十号

司法省

訴訟法會議筆記

八年四月五日

第四百六十三條 急速吟味ノ法式ヲ以テ為シタル
裁判言渡ノ控訴ハ一方ノ代書師ヨリ相手方
ノ代書師ニ招唇ヲ送ルノミニテ其他ノ手續
ナク之ヲ控訴院ノ吟味ノ席ニ上告ス可シ又控
訴ノ被告人定期内ニ其代唇ヲ任セサル時ハ
通常ノ法式ヲ以テ為シタル裁判言渡ノ控訴
ニ付テモ亦同一ナリトス

過日急速吟味ノ法式ヲ以テ裁判スルナリ
説キタリ

司法省

最初初告裁判取ニテ急速吟味ヲ受ケタルモノハ
ソノ他ノ手續ナク一方ノ代唇師ヨリ他ノ一方ノ
代書師へ招唇ヲ送リタルノミニテ通常ノ如
ク八日過キテ答弁書ヲ送ル等ノ手續ナリ
直チニ裁判席ニ出ツルナリ云フ
如シソノ時ニ至リ控訴ノ被告又ニテ代唇
師ヲ任セサルトキハ直チニ欠席ノ裁判
ヲ言渡スナリ

此條中ニ裁判言渡ノ控訴ハ一方ノ代唇師ヨリ
相手方ノ代唇師ニ招唇ヲ送ル云々此招書ハ

レケートレニアラス通常ノ招書ナリ

又云ヨリ以上モ以下モ亦同一ナリトスト各
イテマリ「ホアソート」案スルニ又以下ハ通
常ノ「ヲ」云フモノナリソノ通常ノ「キ」
ナレハ被告人ニテ代書師ヲ立ツルニ八日ソ
ノ後原告人ニテ不服ヲ云フニ八日又ソノ
後被告人ニテ答弁書ヲ送ルハ又八日ナリソ
ノ後招書ヲ送リテ而メ後裁判所へ出席
スルナリ仍テ同一ナリト云フトモソノ同一
ハソノ他ノ手續キナクハ同一ナレハ代書師ナ
キユハ招書ハ送ラサルナリソノ送ラサルハ
同一ナラサルナリ

司法省

此所口ニテ三ツノ區別ヲ立テサルヘカラス
通常ノ時ハ八日内ニ代書師ヲ立ツ

又代書師ヲ立テタル「ヲ」言ヒ送ル控訴ノ原
告人ヨリ我カ不服ヲ言ヒ送ル

更ニ八日ヲ過キテ被告人ヨリ答弁書ヲオク
ル

是ニテハ裁判所へハ出席セスソノ出席スル
ニハ招書ヲ送ラサルヘカラス

ソノ間ニ裁判所ノ帳簿へ登記ス裁判所ニテ
ハソノ取調ノ割付ケヲ為シ置クナリ
ソノ時ニ招昏ヲ送ラサレハ裁判所へ出席
スルニ及ハス
原告人ヨリ不服ヲ言フノ八日ハ時々替ハ
ルナリ何トナレハ原告人ニテ五日目ニ代
昏師ヲ立ラタルヲ言ヒ送リタルトキハ
ソノ日ヨリ起算ス如シ八日ナレハソノ八
日目ヨリ起算スルナリ

第二

司法省

急速吟味ノ手ツキヲ以テ裁判ヲ為スト
キハ不服ヲ言ヒ送ルニモ及ハス又答弁昏
ヲ送ルニモ及ハス初メテ八日内ニ代昏師
ヲ立テレハヨロシ
ソノ代書師ヲ立テタル上ハ招昏ヲ送リタ
ルノミテテ出席スルナリソノ他ノ手ツキ
キナリシ

第三

通常ノ控訴ノトキニ代書師ヲ立テサリシ
ソノトキニハ八日目ノ朝ニ控訴裁判所

へ行キテ直チニ欠席裁判ヲ請永スルナ
リ之レハ代書師ナキユヘ招書ヲ送ルニ
及ハス此條ノ文章ヨロシカラス

第四百六十四條 控訴ノ時ハ嘗テ初告裁判取
ニ述ヘタルヨリ更ニ新タナル訴ヲ為ス
可カラス但シ義務ヲ互ニ消殺スルニ付キ
新タナル訴ヲ為シ又ハ主タル訴訟ノ助
トシテ新タナル訴ヲ為スコトハ之レヲ許ス
又一方ノ者ハ初告裁判取ノ言渡ノ後相
手方ヨリ得可キ息銀年金ノ額家屋ノ

司法省

貸貸及ヒ其他ノ附加シタル諸件ヲ得ニ
ト欲スルコトヲ控訴院ニ訴ヘ又ハ初告裁
判取ノ言渡ノ後損害ヲ受ケタルニ付キ
其償ヲ相手方ヨリ得ント欲スルコトヲ控
院ニ訴フルコトヲ得可シ

元來控訴ヲ為ストキニハ初告裁判取
ニテ述ヘサルコトヲ新タニ控訴スルコ
トヲ得サルハ原則ナリ
ソノ規則ヲ立テタル原因アリ

第一二

初告控訴ニツノ裁判所ヲ何レナリトモ
一方ヲ取り除ケサル方法ナリソノ原因
ノ悪キヲヲ説カントス
ニツノ裁判所ノ一方ヲ取り除ケサル方
法ト爲シタルハ直チニ上等ノ裁判所へ
出ルヲ得サルヤウニ爲シタルモノナ
リ
タトヘハ初告裁判所ニテ裁判ヲ爲シタリソ
ノトキ一方ノモノニテ 兼服スルモ一方ノ
モノ不服ナレハ之レヲ破フルナリ

司法省

ソノ慥カナルモノハ上等ノ控訴裁判所
之レナリ
然レモ初告裁判所ヲ離ルニ得スタトモ
直チニ控訴裁判所へ出ント欲スルトモ得サ
ルナリ

新タナル訴訟ヲ控訴裁判所へ出スナリ
旨意アルナリ

初告裁判所ハ不慥ナリトシテ控訴裁判
所へ出ツルトキハ初告裁判所へ出ツヘ
モノナクシテ尽ク控訴裁判所へ出ツヘシ

控訴裁判所ハ初告裁判所ノ百件中ニテ廿五件位ヨリ外ハ持^テ出サ^レルナリ

直^チニ控訴裁判所へ出^ツル^{コト}ヲ許ストキハ初告裁判所ハ間暇ナルヘシ

仍^テ通常ノ^{コト}ハ願^ヒニヨリテ吟味ヲ為スト虽^モ氏新^クナル訴訟ハ双方ノ願^ヒニ仍^テス控訴裁判官ニテ直^チニ之^レヲ戻スヘキナリ

係新^クナル訴訟ヲ直^チニ持^テ出^ス場合アリ控訴ヲ^シタル被告人ト^スリタルトキソノ

司法省

本案ヲ防^グ為^メニハ新^クナル訴訟ハ^テ為^スコトヲ許^スナリ

タトハハ差^引動^定ノ如^キ之^レナリ之^レヲ持^テ出^ストキハ控訴ノ本案ノ消滅スル^{コト}アリ又消滅セストモ幾^分ノ便益アリ義務ヲ互^ニ差^引動^定ノ消殺スル^{コト}ニ付^キト云フトモ又ハ至^タル訴訟ノ助^トシテ新^クナル訴訟ヲ為^スト云フト同一ノ^{コト}ナリ又同一^ナラサル^{コト}アリ

タトハハ初告裁判所ニテ契約ノ義務ヲ遂^テ

サルニ付キ訴訟トナリテ負ケタリ仍テ
控訴ヲ為シタリ

ソノトキハ負ケタルモノニテ之レハ不善ノ
契約ナリ依テ之レヲ遂ケスト云フトキ之
レナリ

之レハ差引勘定ニモアラス

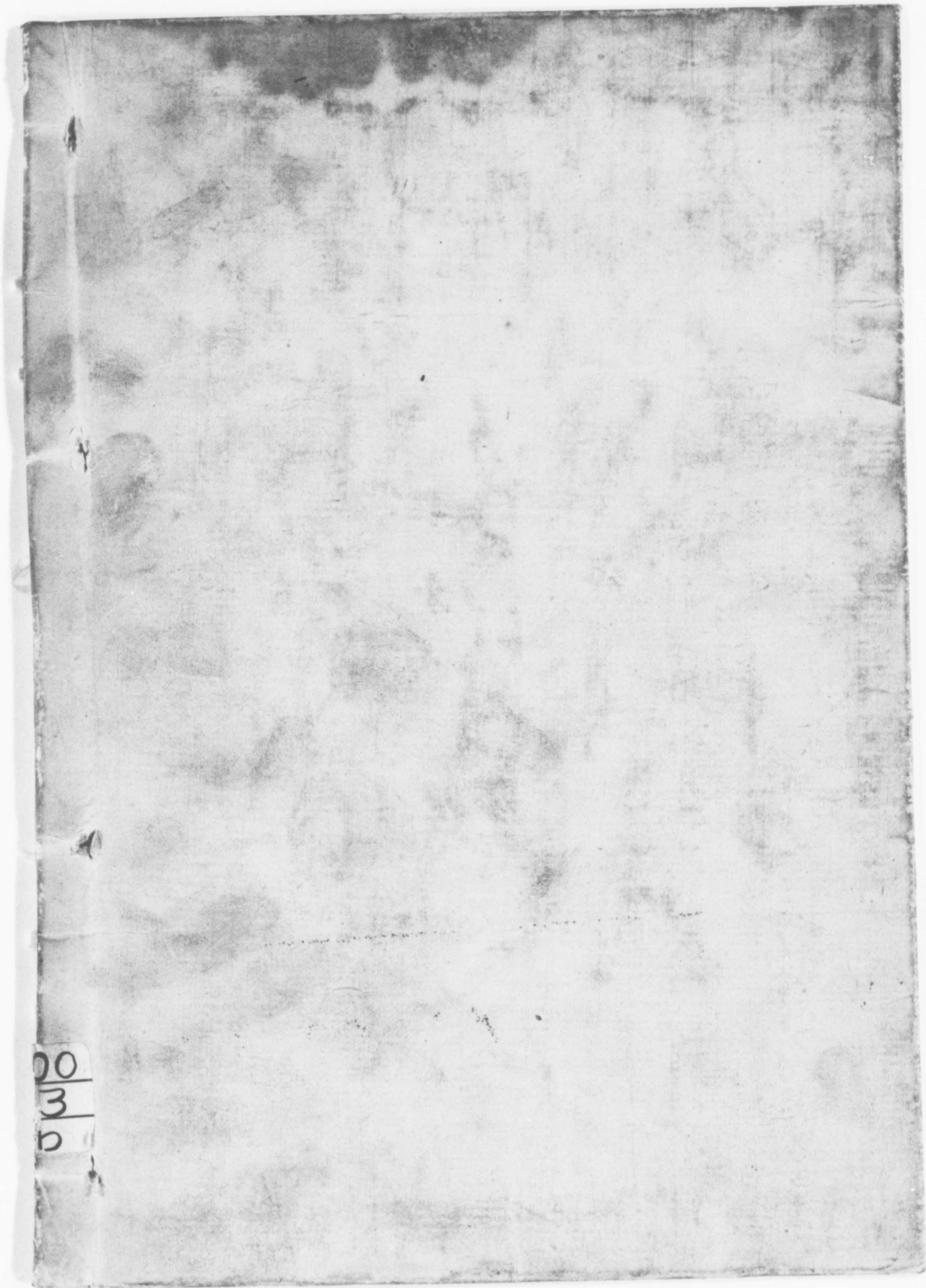
又原告人ニテ新クナル訴ヲ為スコアリ併
シソノ場合ハ甚ク狭シ

初告裁判取ニテ未タ期限ノ来ラサル為メニ
負ケタリソノ後期限ノ来リタルコト又ハ初

司法省

告裁判取ノ裁判ノ後ニ生シタル損害ノ償
ヲ求ムルコトヲ得ルナリ

初告裁判取ノ裁判前ニ期限ノ来リタル息
銀又ハ年金等ヲ初メニ残シタルトキハ之
レヲ控訴裁判取ヘ訴フルコトヲ得ズ之レハ
再ヒ初告裁判取ヘ訴ヘサルヘカラス



00
3
D